

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2013年4月22日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.14

＜生徒に対する承認頻度を上げよう！＞

春期講習も終わり、新年度がスタートしました。また新しい一年が始まります。年度替わりのこの3月・4月は入会者も一番多い時期です。貴塾ではどのくらい新しい生徒がやってきたでしょうか。

ここで一つ私から注意です。4月・5月の時期は、絶対に退会者を出してはいけません。卒業生を含め、年度替わりにはある程度退会者が出てしまったでしょうから、この新学年のスタートの時期に退会者を出してはいけません。

また、5月になると、夏期講習の仕込みの時期ですから、ここで不満退会者が出ると、夏期講習での集客に響くことにもなります。

その他にも、6月末では、退会者が通常月の2倍出てしまう可能性があります(これは私が大手学習塾の経営幹部時代にとった統計で証明されています)。ですから、この4月・5月という時期は、極力生徒ケア・保護者ケアを徹底して、内部満足度を上げることが必要です。

そこで今回は、生徒の満足度を上げる取り組みということで、「教師の生徒に対する承認行為の頻度を上げること」について考えてみましょう。

私どもは、クライアント塾の授業見学も行うのですが、その中で各塾の授業をどう見るかといいますと、授業の内容の前に、まずは必ず「教師の承認行為の頻度」を見ます。生徒のどこを見て、その生徒をどう承認するのかということで、その教師の力量が分かるのです。

教師が生徒をどう見つめているのか(=観察しているのか)、そして、その教師がどういうアプローチを取って、生徒を勇気付け、生徒のセルフ・エステーム(自己重要感)を高めるのか。ここが重要なところですよ。

大体において、伸び悩みの塾は、授業の中での教師の

生徒に対する承認行為の頻度が少ないのが特徴です。教師が積極的に生徒の行為を認めようとしていないのです。あなたの塾ではどうでしょうか？

例えば、演習の問題ができていれば、「OK!よくできたね!」と認めればよいのに(これが一番簡単な承認だ)、軽く流したり、次々と問題を与えたりしているだけだったりします。これでは、生徒は問題演習を積極的に取り組むという意欲がなくなってしまうし、先生との関係が希薄になります。あなたの塾で心当たりはないでしょうか？

ですから、各授業担当者には、生徒への承認行為の頻度を上げるように指示してください。生徒の出来たことを認めること、努力する姿勢を認めること、生徒の良い点を指摘してあげること、何でも良いのです。生徒の座る姿勢が良い、ノートに日付がしっかりと書けたというようなことでも構いません。

塾で一番長いのは授業の時間です。授業が生徒にとって、楽しいものになること(=たくさんの承認をもらうこと)が退会を防ぐ最大のものです。この意識をもって、授業に取り組んでください。

【あとがき】

お待たせいたしました。マネジメント・ブレイン・アソシエイツ主催の2013年度のセミナーの募集を開始いたしました。下記のアドレスから詳細をご確認の上、是非お問い合わせ下さい。

<http://www.management-brain.com/2013/>



前回は、私立麻布中学校(東京都港区)が出題した入試問題を例に、「考えることのできる生徒がほしい」という学校側のメッセージをご紹介します。ここでは、なぜ「考えることのできる生徒がほしい」のかといった教育論は論じませんが、このような力を有する生徒を欲しているのは麻布だけではありません。というのも、知識を問うだけの問題から、考えないと答えられない問題またはそういった入試制度が導入されつつあるからです。

神奈川県では、2013年入試より通常の5教科型の入試に加えて、新たに「特色検査」なる入試が始まったことは前回お伝えしました。この入試はまさに「公立中高一貫校の高校入試版」と呼べるものになっていますが、同様の入試は複数の都道府県ですでに始まっているのです。その一つ、県立上位校を中心に導入が始まった宮城県を少し概観してみましょう。

宮城県教育庁は「文章読取型」「資料読取型」「情報読取型」の3つに大別される出題形式の例を以下のように詳しく公表しています。

1 「文章読取型」

提示された文章からその内容を読み取り、筋道を立てて自分の考えを述べる。

例) 次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。

英文省略

問1 この文章で作者が伝えたいことを200字以内の日本語で答えなさい。

問2 あなたがきれいだと思うことについて、200単語程度の英文で書きなさい。

2 「資料読取型」

提示された図・表・グラフからその内容を読み取り、筋道を立てて自分の考えを述べる。

例) 次の資料を見て、あとの問いに答えなさい。

資料省略

図1は○○○を示すものである。これは…である。表1は●●●の変化を表したものであり、これをもとに考えると、2030年には…となる。また、図2は△△△の様子を撮影した写真である。

問1 表1をグラフに表しなさい。

問2 ●●●は2030年にはどれくらいになると予想できますか。計算過程を含めて答えなさい。

問3 図2が見られる場所を答えなさい。

問4 資料で示される□□について、あなたならどのような解決法があると考えますか、答えなさい。

3 「情報読取型」

講義、映像、音声題材、実験・実習題材で与えられた情報を読み取り、自分の考えを論理立てて述べる。

例) 実験の様子及び日常生活の一場面を撮影したビデオを見せたあとに

問1 ビデオで流された現象を何といいますか。

問2 日常生活で見られた現象と実験で示されたことが同じ原理に基づいて起こっていると考えられる理由を簡単に説明しなさい。

問3 この現象が起こるしくみについて、説明しなさい。

問4 この現象が起こるしくみを利用して現在人類がかかえている環境問題やエネルギー問題を解決するヒントを示して下さい。

いかがでしょうか。

イメージが伝われば御の字なのですが、最大の特徴はやはり「論述問題の多さ」というか、ほぼすべてが論述問題ということ。200単語程度の英文で答える問題や計算過程を書かせる問題など、5教科の知識をフル活用して、さらにそれをもとにして「考えさせようで書かせる」問題が並んでいます。

前回も少し申し上げたことではありますが、以前であれば、国公立大学の入試で出題される「特殊な問題形式」と認識されていたはずの論述問題が、今では公立中高一貫校ではあたりまえ、それが高校入試にも侵食し始めています。今はまだ5教科型の旧態依然の高校入試…という都道府県であったとしても、近々、大幅に入試制度が変更され、「論述中心の入試が始まる」と考えておくべきだと思います。なぜなら、それが高校入試のみならず、すべての入試の全国的なトレンドだからです。

なお、余談ではありますが、進化論を唱えたダーウィンは、「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。そうでもない。それは変化に対応できる生き物だ」という考えを示したと言われています。